



山梨県障害者差別解消支援ネットワーク会議

事務局：山梨県障害福祉課
〒400-8501
山梨県甲府市丸の内1-6-1
Tel 055-223-1460
Fax 055-223-1464
E-mail shogai-fks@pref.yamanashi.lg.jp

【トピック】

- 「障害者に関する県民意識調査」から考えるお互いさまの気持ち
- 知ってますか？「白杖のサイン」
- 「With you ハンカチ」で広めよう「誰かがそばにいてくれる」という気持ち

障害者差別解消法がスタートしてから2年。障害のある方々の相談では、「差別を受けた」という訴えから、「こうしてほしい」「こうだったらいいな」という合理的配慮を求める声へと変わってきている様子が見えてきます。

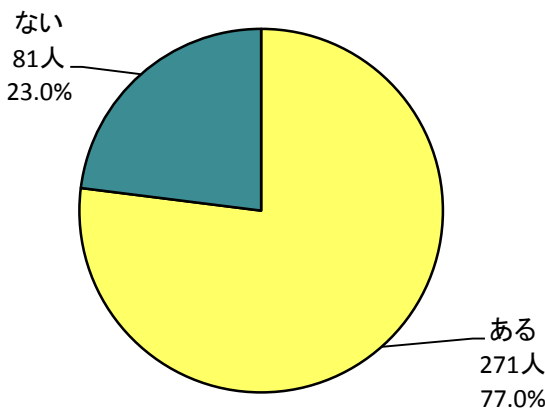
事前の環境整備や合理的配慮の積極的な提供は、みんなのためのより良い暮らしづくりであるという意識が必要で、まさにお互いさまの感覚が求められるのではないかと考えています。「障害者に関する県民の意識調査」の結果から、お互いさまの意識の広がりを考えます。

「障害者に関する県民意識調査」から考えるお互いさまの意識

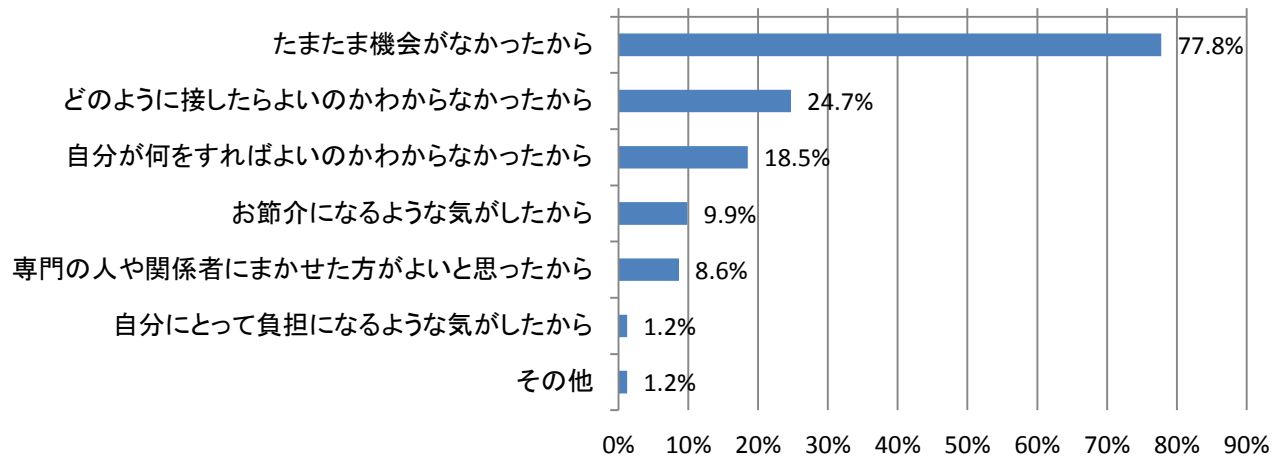
平成29年5月に県が県政モニター(400人)を対象に実施した「障害者に関する県民意識調査」は、357人(89.3%)から回答を得ました。

この調査は、障害者差別解消法や改正山梨県障害者幸住条例の施行から1年が経過した時期に実施されました。共生社会のとらえ方や障害のある方との関わり方等に関して尋ねています。ここでは、次の項目に注目します。

障害のある方とのかかわりに関し 会話や手助けの経験がありますか

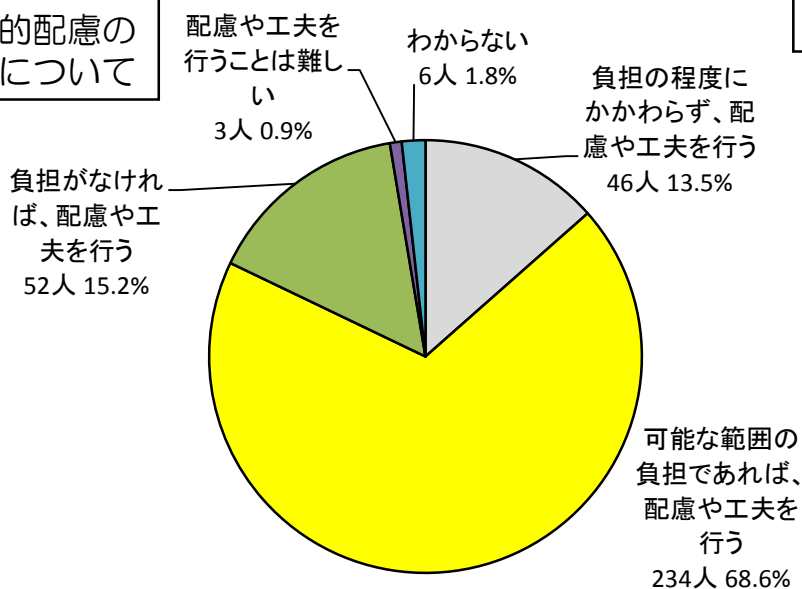


会話や手助けをしたことがない理由(複数回答)



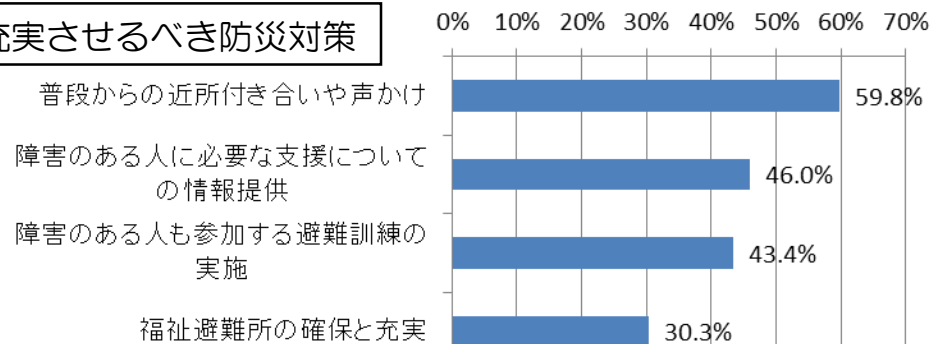
会話や手助けをしたことがある人の割合が、77%です。日常生活の中で、お互いに関心を持って生活している人が多いととらえることができるのではないのでしょうか。会話や手助けをしたことがない理由では、「どのように接したら」「なにをすればよいか」「お節介になるようで」と答えた人が多くなっています。助けてほしい人、助けたい人がお互いに、もう一歩踏み出して声を掛け合うことで手助けし合える関係ができます。これは、障害の有無に関わらず様々な状況にある人たち相互の関係でも同様です。

合理的配慮の提供について



合理的配慮の提供について、「負担の程度にかかわらず」から「負担がなければ」配慮や工夫を行うとした人の割合が、97%を占めます。お互いに寄り添う心を持ち、誰もが暮らしやすい社会にしていこうという思いを感じることができます。

充実させるべき防災対策



防災に関し、自助・共助・公助の取組が求められています。前号でお伝えした高校生が団地火災で弟達や近所の人達と協力し、障害のあるお年寄りや子供達を救助したことはこの共助の例です。日頃から近隣の人たちの情報を家族で話し合っていて把握していたことも伝えられています。この問いで、最も必要とされた「普段からの近所づきあいや声掛け」は、障害の有無に関わらず、近隣の人達が日常を共有する生活から生まれる共助のもととなることで、まさに共助は協助ともいえるのではないのでしょうか。

なお、調査結果の詳細は、県のホームページでご覧いただくことができます。「**障害者に関する県民意識調査**」で検索

知っていますか？白い杖のサイン

「白杖(はくじょう)にサインを込めて SOS」



日本盲人会連合
「白杖SOSシグナル」のシンボル
マーク



(山梨県視覚障がい者協会のチラシより転載)

これは、県視覚障がい者福祉協会副会長の矢崎繁氏が、障害者週間(12/3～12/9)に合わせて行われた第28回障害者の主張大会で、「一筆の主張」として応募された川柳のひとつです。

矢崎氏は、「『白杖(はくじょう)SOSシグナル』運動は、西日本方面では以前より行われていた運動です。押しボタン式開閉ドアの電車車両に乗る際にボタンの位置が分からず危険だという訴えに対し、JR側は『困ったら手を上げていただきたい』と回答しました。これを受け、山梨県視覚障がい者福祉協会でも何らかのアクションを示すべきと今年から運動を始めました。当事者はもとより、多くの皆さんに(このサインの意味を)知ってもらうことが重要だと思います」と白杖サインの社会への広がり的重要性を語っています。

通信No.16で、全盲のスイマー河合純一氏の「困っている人に声をかけるにはどうしたらよいのか、また困っているときにどう頼んだらよいのか」という心のバリアをゼロにするためには、「感性を豊かにすることが大切」で「まず声をかけることから始め、一緒に課題を共有していくうちに仲間になっていく」という言葉を紹介しました。

相互に助け、助けられる関係を意識し、お互いさまの関係ですべての人がつながっていることを理解できれば、気軽に声を掛け合うなんてことは日常のこととなるのではないかと考えています。勇気をもってではなく、当然のこととして「お困りですか」「手助けをお願いします」と声を掛け合うことができる世の中であるべきです。

白杖サインを見かけたら、まず「お困りですか」と声をかける。そして、「何かお手伝いしましょうか」でお互いに安心が広がり、肩やひじに触ってもらって一緒に歩く。さらに、歩きながらのちょっとした会話。心がつながるひとときになること間違いなし。

自分のことだけ、自分さえよければなどということはよしにして、お互いの生きづらさを共有し、多様さを理解して、皆で生きていくためには何をすべきかを考えることが求められる時代となっているのです。

「With you ハンカチ」で広めよう、 「誰かがそばにいてくれる」という気持ち

With you ハンカチのご紹介

山梨県は、民間団体「いのちを守る山梨県民運動推進会議」の活動を支援しております。

同会議では、「誰かがそばにいてくれる」「話を聴いてくれる」と思い出してもらえそうなメッセージ「With you」をプリントしたハンカチを作成し、販売活動を通じ、自殺対策の普及啓発に役立てることにしています。

綿100%で、もえぎ色のおしゃれなデザインです。

「いやになっちゃったなあ、そんなとき、「誰かがそばにいてくれる」ってことは大切なこと。「With you」、あなたのそばには必ず誰かがいます。

「With youハンカチ」は、その販売活動をとおして自殺対策の普及啓発に役立てるとともに、販売収益により自殺対策事業の実施に役立てることを目的として作られました。現在、株式会社山交百貨店と県内のファミリーマートで販売するとともに、クラウドファンディングでも自殺対策事業への資金援助を募っています。

このクラウドファンディングは、「FAAVOやまなし」でプロジェクトを展開しています。ここでは、「いのちを守る山梨県民運動推進会議」の紹介とともに、「With you」に込められた思いが綴られています。

「いのちを守る」。自分自身のこととして考えたいことのひとつです。

「With you」ポスター募集

「いのちを守る山梨県民運動推進会議」では、自殺予防啓発事業の一環として、ポスター展(募集期間終了後実施)を開催します。

「With you!」「いのちを守ること、大切な人の気持ちに寄り添うこと」「いじめはダメ」などをテーマとした作品を募集しています。募集期間は平成30年2月14日(水)まで、募集の対象は小学

生から一般までとなっています。同会議では、ポスターの製作を通じ、「子どもも大人も命の尊さと共に生き合うことへの関心や意識を高めることを願って」企画しています。応募作品数が多くなることも、自殺予防につながります。

「いのちを守る県民運動推進会議」の活動の詳細などは、ホームページ <http://www.ucon-yamanashi.jp/> でご確認ください。

あなたにできる
自殺予防があります



ネットワーク通信の バックナンバー、見られます

推進員日誌 推進員のつぶやき

ネットワーク通信のバックナンバーを県のホームページでご覧いただくことができるようになっております。アクセス環境のある方、ぜひご覧ください。

バックナンバーはこちら
県ホームページで

「ネットワーク通信」で検索
(No.1から最新号まで)

http://www.pref.yamanashi.jp/shogai-fks/network_tuushin.html

少し前の甲府駅でのできごとです。ベビーカーを押す女性が、電車からおりようとしていました。私が降車を手伝おうと両手を差し出した時、同じく、やはり無言で両手を差し出した人がおりました。旧知の山梨大学の教授でした。2人でのお手伝いとなりましたが、久しぶりのあいさつと近況の交換の機会に恵まれました。また、別の日、出勤時に下りのエスカレーター近くで手押し車を押す年配の女性が、「お手伝いしましょうか」と声をかけ、私が手押し車を抱えて階段を降り、その後からエスカレーターで降りてきたその女性へ、「お気をつけて」と声をかけながら渡しました。いずれの日も、その後はなんだか楽しい一日でした。しかし、最近では、この楽しい気持ちを感じずに当たり前のこととして過ごす人になりたいと自戒するばかりです。

編集及び文責：古屋徳康(県障害者差別解消推進員)